



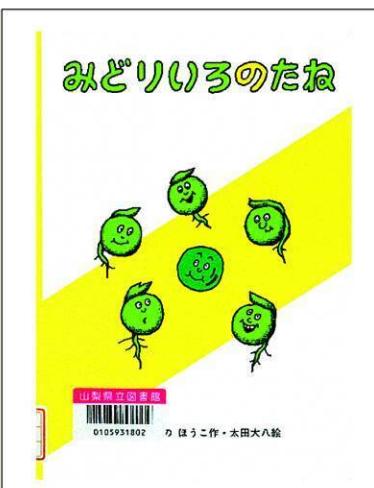
NIE
教育に
新聞を
4

小学1・2年生向け

みどりいろのたね

たかどのほうこ作 太田大八絵

まあちゃんたちのクラスでは、畑に種をまくことになりました。土を耕して、先生から緑色の種を5個ずつもらいました。まあちゃんは種をもらうとき、口の中であめ玉をなめていることを先生に気付かれて、出すように言われました。まあちゃんは右手にあめ玉を出し、左手に種をのせてもらいました。ところが、ついうっかり緑色のあめ玉も、種と一緒に土の中に埋めてしまいました。種まきの後、なまけもののまあちゃんが、ちっとも水をやらないので、のどが渴いた種はライラし、あめ玉とけんかを始めます。あめ玉と種のけんかの場面が面白おかしく描かれた本です。種から芽や根が出て成長していく様子も楽しむことができます。



(福音館書店 1320円)

小学3・4年生向け

畠の一年

むかいだとも やさく
向田智也作

この野菜畠では、季節に合わせていろいろな作物を育てるため、1年中計画的に作業をしています。例えばニンジンの種をまくのは、ナスやカボチャなどの夏野菜の収穫が始まる7月ごろです。10月にニンジンの根が色づき大きく太くなり始める頃は、小麦の種まきの準備を始め、12月にニンジンや白菜を収穫する頃には小麦の根を強くするため麦ふみをします。冬の寒い時季にもくわで畠を掘り起こし、「作が育ちやすい土」をつくるという大切な作業があります。この本には、畠の様子が月ごとに一目でわかるよう、地面の下の作物の姿や、畠に集まるいろいろな生き物がイラストで描かれています。畠仕事や生き物に興味がある人におすすめです。



(小学館 1540円)

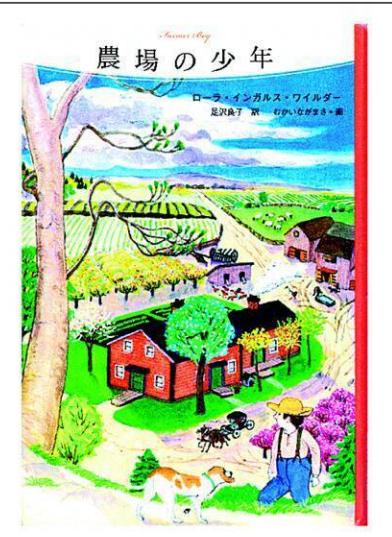
図書館へ ようこそ

小学5・6年生向け

農場の少年

ローラ・インガルス・ワイルダー作
たるさわよし こやく
足沢良子訳 むかいながまさ画

今から150年ほど前、西部開拓時代のアメリカが舞台のお話です。もうすぐ9歳になる男の子、アルマンゾの家は、父親が広い農地で野菜や穀物を育て、多くの家畜を飼うお金持ちの農家です。アルマンゾは父親や兄と一緒に、朝と夕方、牛や豚に水やエサをやります。畠の土ならしや、野菜や穀物の種まき、カエデ作りも手伝い、秋の収穫には自分で育てたカボチャを出品しました。今ほど機械化されていないため重労働で、1年中忙しいのですが、とれたての作物を使ったおいしい豆料理やパイなどを食べることができます。学校での勉強より、畠や家畜の世話を好きな少年の、農場での生活を描きます。



(草薙社 1980円)

野菜や花を育てたら…



野菜や花が育つ様子を見ていると、不思議な力を感じませんか？ 種や球根は、芽が出て成長し、花が咲いたり、実をつけたりします。今回は、野菜や花を育てることをテーマに本を紹介します。

(山梨県立図書館 山田あや)

=毎月第2週に掲載します

中学生向け

秘密の花園

F・H・バーネット作 谷口由美子訳

両親の愛情を受けずに乳母に育てられた、わがまま孤独な少女メアリは、9歳で両親を亡くし、イギリスに住む叔父さんに引き取られました。叔父さんの屋敷は大きく、とても広い庭もありました。メアリは一人で外遊びをして過ごすうちに、高い塀で囲まれた庭を見つけ、「秘密の花園」と名付けます。メイドのマーサの弟、ディコンと一緒に、花の種をまいたり、バラの手入れや球根の世話を続けたりしていると、庭をよみがえらせることに喜びを感じるようになりました。ある晩のこと、メアリは、屋敷の中で誰かが泣いているような声に気が付きます。そして、叔父さんや屋敷の人たちがメアリに隠していたことを知ってしまい…。



(講談社 2090円)